

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19700647
 研究課題名（和文） 不登校段階に応じて支援可能な多人数参加型の
 不登校改善支援システムの開発と評価
 研究課題名（英文） Development and evaluation of supporting system of large number of
 person participation type for school refusal students on multiple phase
 研究代表者
 加藤 尚吾（KATO, Shogo）
 早稲田大学・人間科学学術院・助手
 研究者番号：80406735

研究成果の概要：

はじめに、不登校児童生徒を対象にした支援に適した CMS のプロトタイプを作成し、実際の教育現場で不登校支援に関わる教員による評価を行った。その結果、さまざまな追加機能の要望や、また現在の児童生徒の電子メディアに対する実態から、より基礎的な調査や実験を行う必要性が明らかになった。それを踏まえて、これまでの基礎研究で明らかになっていない電子メディアコミュニケーションにおける感情的な側面に関する基礎研究を行い、国内外の学会で広く研究成果を報告した。なお、基礎実験は、倫理面に十分に配慮する理由から、不登校児童生徒を被験者とはせず、大学生・大学院生を被験者として行った。具体的には、4つの感情（悲しみ、喜び、怒り、罪悪）に関する状況におけるテキストベースのコミュニケーションによる感情伝達に関して研究を行った。これらから、相手との親しさによって、自身の感情の表現に違いが生じることなど、不登校児童生徒支援におけるコミュニケーションに対する示唆を得た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,800,000	0	1,800,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,300,000	450,000	3,750,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学・教育工学

キーワード：メディア教育、不登校支援、メディアコミュニケーション、携帯メール、感情

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初より、Web2.0 的な発想により、一般ユーザにとって様々なことが可能になり、ブログなど、ユーザが手を加えることができる電子メディアが普及してきていた。これらを用いることは、不登校児童生徒に対して、表現方法の選択肢を増やすことになると考えられた。また、支援する側にとっても、

援助の手段の選択肢が増えると考えられた。

2. 研究の目的

本研究では、不登校改善支援において、多人数参加型の電子メディアである BBS や、メーリングリスト、ブログを導入することによって生じるであろう、さまざまな問題に注目する。取り上げる。そして、電子メディアを使ったコミュニケーションにおいて、不登

校支援の視座から特徴を明らかにする。具体的には、各電子メディアのコミュニケーションの特徴をふまえて、同じ悩みを持つ者あるいは傍観者としての他者が存在する場での、本心の書きやすさ、自己開示の促進、感情的側面などについて、分析する。

3. 研究の方法

最初に、実践を行う際のガイドラインを作成する。そして、そのガイドラインにしたがって以下の研究を遂行する。

本研究課題で取り上げる各電子メディアの特性を、不登校支援の視座から検討するために、カウンセリングに適用するための要因(例えば、本心の書きやすさ、自己開示、感情的側面など)に焦点を絞り、基礎実験を行う。基礎実験は、倫理面に十分に配慮する理由から、不登校児童生徒を被験者とはせず、大学生・大学院生を被験者として行う。平成19年度は、特にブログとメーリングリスト、BBSのメディア特性を明らかにする。

さらに、上述の基礎実験による電子メディアの特性を、不登校児童生徒の電子カウンセリングに適用する前に、発達段階による影響、特にユーザビリティの面を検討する必要がある場合は、小中学校の児童生徒、教員に対して、調査を行う。その後、実際のカウンセリング場面に適用する。

また、平成20年度も、電子メディアの特性を検討するために、大学生・大学院生を被験者とした基礎実験を行う。平成20年度は、特に平成19年度に検討が不十分であった電子メディアの特性を明らかにする。そして、その分析結果を教育センターでの実践に適用する。また反対に、実践現場から得られた新たな各電子メディアに関する仮説を基礎実験で検証する。

さらに、平成19年度と同じく、上述の基礎実験による、電子メディアの特性を不登校児童生徒の電子カウンセリングに適用する前に、発達段階による影響を検討する必要がある場合は、小中学校の児童生徒、教員に対して、調査を行い、その後実際のカウンセリング場面に適用する。

最後に、研究全体のまとめとして、不登校状態の段階や要因に適した電子メディアを明らかにする。そして、不登校支援システムの改善と評価を行う。評価は開発したシステムに含まれる各電子メディアおよび全体的なシステムを対象にする。

4. 研究成果

最近、CMSやLMSなど、ユーザが手を加えることができる電子メディアが普及している。これらを用いることは、不登校児童生徒に対して、表現方法の選択肢を増やすことになる。本研究では、不登校改善支援において、多人数参加型の電子メディアであるBBS

や、メーリングリスト、ブログを取り上げた。つまり、電子メディアを使ったコミュニケーションにおいて、不登校支援の視座から特徴を明らかにすることは意義がある。

平成19年度は、不登校児童生徒を対象にした支援に適したCMSのプロトタイプを作成し、実際の教育現場で不登校支援に関わる教員による評価を行った。その結果、さまざまな追加機能の要望や、また現在の児童生徒の電子メディアに対する実態から、より基礎的な調査や実験を行う必要性が明らかになった。

平成20年度では、平成19年度に開発した不登校改善支援のためのCMSの機能を踏まえるとともに、教員の評価から、より多くの課題がわかってきたため、これまでの基礎研究で明らかになっていない電子メディアコミュニケーションにおける感情的側面に関する基礎研究を行い、国内外の学会で広く研究成果を報告した。なお、基礎実験は、倫理面に十分に配慮する理由から、不登校児童生徒を被験者とはせず、大学生・大学院生を被験者として行った。具体的には、4つの感情(悲しみ、喜び、怒り、罪悪)に関する状況におけるテキストベースのコミュニケーションによる感情伝達に関して研究を行った。これらから、相手との親しさによって、自身の感情の表現に違いが生じることなど、不登校児童生徒支援におけるコミュニケーションに対する示唆を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1) Kato, Y., Kato, S., Scott, D. J., & Sato, K. (2009). Patterns of emotional transmission in Japanese young people's text-based communication in four basic emotional situations. *International Journal on E-Learning (IJEL) Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education*, (印刷中). (査読あり)

2) Kato, S., Kato, Y., & Scott, D. J. (2009). Relationships between emotional states and emoticons in mobile phone email communication in Japan. *International Journal on E-Learning (IJEL) Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education*, 8(3), 385-401. (査読あり)

3) Kato, S., Kato, Y., Scott, D.J., & Akahori, K. (2008.7). Analysis of Anger in Mobile Phone Email Communications in Japan. *Wasada journal of human sciences*. 21(1), pp.29-39. (査読あり)

4) 加藤由樹, 加藤尚吾, 赤堀侃司 (2007.9). 電子メールコミュニケーションにおける書き手の性別が読み手の感情面に及ぼす影響 - 大学生を対象とした実験による検討 - . 日本社会情報学会学会誌, 19(2), pp.17-33. (査読あり)

[学会発表](計 32 件)

1) Kato, S., Kato, Y., Scott, D.J., & Takeuchi, T. (2009). Rating Communication Methods and Emotional Transmissions in Anger and Guilt Situations by Japanese College Students. Proceedings of ED-MEDIA2009.

2) Kato, Y., Kato, S., Scott, D.J., & Takeuchi, T. (2009). Analyzing Emotional Cue Transmission and Message Contents in Japanese Mobile Phone Email Communications. Proceedings of ED-MEDIA2009.

3) Takeuchi, T., Kato, Y., & Kato, S. (2009). Manga-Based Beginner-level Textbooks; Proposal of a Website for their Creation. Proceedings of ED-MEDIA2009.

4) Kato, Y., Kato, S., Scott, D. J., & Takeuchi, T. (2008. 11). Relationships between the Emotional Transmissions in Mobile Phone Email Communication and the Email Contents in Japan. Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education (E-learn) 2008, pp.2804-2811.

5) Scott, D. J, Kato, S., & Kato, Y. (2008. 11). Content Analysis of Gender Differences in the Informal Email Communications of Japanese Young People. Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education (E-learn) 2008, pp.3170-3178.

6) Takeuchi, T., Kato, S., & Kato, Y. (2008.11). Comparison of intensive class and regular class: research by a questionnaire. Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education (E-Learn) 2008, pp.3223-3232.

7) Sato, K., Kato, Y., & Kato, S. (2008.10). Exploring Emotional Strategies in Mobile

Phone Email Communication: Analysis on the Impact of Social Presence. Proceedings of International Conference on Computers in Education (ICCE) 2008, pp.253-260.

8) Kato, S., Kato, Y., Scott, D. J, & Sato, K. (2008.6). Selection of ICT in emotional communication for Japanese students: focusing on emotional strategies and gender differences. Proceedings of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2008, pp.1050-1057.

9) Kato, Y., Kato, S., Scott, D. J, & Sato, K. (2008.6). Emotional strategies in mobile phone email communication in Japan: focusing on four kinds of basic emotions. Proceedings of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2008, pp.1058-1066.

10) Scott, D. J, Kato, Y., & Kato, S. (2008.6). Gender differences in the writing of mobile phone email in Japan: a follow-up study. Proceedings of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2008, pp.256-261.

11) Takeuchi, T., Kato, S., & Kato, Y. (2008.3). Suggestion of a quiz-form learning-style using a paid membership bulletin board system. Proceedings of Society for Information Technology and Teacher Education International Conference (SITE) 2008, pp.3173-3178.

12) Kato, S., Kato, Y., & Tachino, T. (2007.11). Lesson practice which took in the lesson preliminary announcement using the mobile phone. The 15th International Conference on Computers in Education ICCE2007 Supplementary Proceedings: Poster-Proceedings of International Conference on Computers in Education (ICCE) 2007, 21-22.

13) Yanagisawa, M., Kobayashi, M., Kato, Y., Kato, S., & Scott, D. J. (2007.11). Research on the Emotions Interpreted from Emoticons in Japanese Cellular Telephone Email. In T. Hirashima, H. U. Hoppe, & S. Shwu-Ching Young (Eds.), Supporting Learning Flow Through Interactive Technologies-Proceedings of

International Conference on Computers in Education (ICCE) 2007 (Frontiers in Artificial Intelligence and Applications, Vol.162), Amsterdam: IOS press, 369-376.

14) Scott, D. J., Kato, Y., & Kato, S. (2007.10). Preliminary Findings on Gender Differences in the Informal Email Communications of Japanese Young People. Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education (E-learn) 2007, 6867-6871.

15) Kato, S., Kato, Y., Scott, D. J., & Akahori, K. (2007.10). Analysis of Anger in Mobile Phone Email Communications in Japan. Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education (E-learn) 2007, 6083-6090.

16) 加藤尚吾, 加藤由樹 (2008.10) 受信したメッセージ内容により生じる怒りおよび罪悪場面での相手への返事のためのメディアの選択に関する調査. 日本教育工学会第24回全国大会講演論文集, pp.879-880.

17) 加藤由樹, 加藤尚吾 (2008.10) 携帯及びPCメールコミュニケーションにおける感情面に関する比較 - 米国の社会人を対象にした実験による検討. 日本教育工学会第24回全国大会講演論文集, pp.881-882.

18) 加藤尚吾, 加藤由樹, 竹内俊彦 (2008.8). テキストコミュニケーションにおける感情的側面を支援するシステムの検討. 日本教育情報学会第24回年会論文集, pp.176-177.

19) 加藤由樹, 加藤尚吾, 竹内俊彦 (2008.8). 情報科の教諭を目指す大学生を対象にしたネットコミュニケーションにおける不適切行為に対する意識調査. 日本教育情報学会第24回年会論文集, pp.236-237.

20) 佐藤弘毅, 加藤由樹, 加藤尚吾 (2008.5). 携帯メールコミュニケーションにおける感情方略に相手との社会心理的距離の与える影響の分析. 日本教育工学会研究会報告集, JSET08-2, .87-94.

21) 岸俊行, 加藤尚吾. (2008.3). 遠隔カウンセリング実施時におけるクライアントの不安と行動との関連の検討. 第19回日本発達心理学会大会論文集, p649.

22) 加藤由樹, 加藤尚吾, 佐藤弘毅. (2007.12). 電子メールコミュニケーションにおける感情方略に関する分析 - 四種類の感情場面に着目して -. 日本教育工学会研究会報告集, JSET07-5, pp.43-48.

23) 加藤尚吾, 佐藤弘毅, 加藤由樹. (2007.12). 感情方略に着目したメディア選択に関する分析. 日本教育工学会研究会報告集, JSET07-5, pp.37-42.

24) 加藤尚吾, 後美帆, 荒巻恵子, 加藤由樹, 西村昭治. (2008.3). 不登校生徒を対象にした適応指導教室におけるCMSを活用した支援の提案. 日本教育工学会研究会報告集, JSET08-1, pp.233-236.

25) 加藤由樹, 加藤尚吾 (2007.9). 携帯メールにおける相手との親密度とメール内容の関係 - 感情伝達に関する内容に注目した分析 -. 日本教育工学会第23回全国大会講演論文集, 731-732.

26) 加藤尚吾, 加藤由樹 (2007.9). 感情状態と相手との関係によるメディアの選択と感情伝達に関する検討. 日本教育工学会第23回全国大会講演論文集, 741-742.

27) 柳沢昌義, 安永一香, 加藤由樹, 加藤尚吾 (2007.9). 携帯メールの感情表現と短文効果に関する研究. 日本教育工学会第23回全国大会講演論文集, 747-748.

28) 加藤尚吾, 加藤由樹 (2007.8). 感情の伝達に関するメディア比較: 返信に焦点を当てた分析. 日本教育情報学会第23回年会論文集, 248-249.

29) 加藤由樹, 加藤尚吾, 竹内俊彦 (2007.8). 情報の教諭を目指す学生を対象にしたネットいじめに関する意識調査. 日本教育情報学会第23回年会論文集, 250-251.

30) 加藤由樹, 加藤尚吾 (2007.5). 親しさと立場の異なる相手への携帯メールの返信時期に関する分析. 日本認知心理学会第5回大会発表論文集, p.88.

31) 柳沢昌義, 安永一香, 加藤由樹, 加藤尚吾 (2007.5). 携帯電話におけるメールの長さが感情表現に及ぼす影響に関する研究. 日本認知心理学会第5回大会発表論文集, p.99.

32) 加藤由樹, 加藤尚吾 (2007.8). 電子メールコミュニケーションにおける送受信者間の感情伝達と感情特性の関係. 日本教育

心理学会第 49 回総会発表論文集, p.522.

〔図書〕(計 1 件)

1) Scott, D. J., Coursaris, C. K., Kato, Y., & Kato, S. (2008). The exchange of emotional context in business communications: a comparison of PC and mobile email users. In M. M. Head & E. Li (Eds.), *Mobile and Ubiquitous Commerce: Advanced E-Business Methods: Volume 4 of Advances in Electronic Business Series*, (Chapter 6, pp.201-219). Hershey, PA: IGI Global.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

加藤 尚吾 (KATO SHOGO)

早稲田大学・人間科学学術院・助手

研究者番号 : 80406735

(2)研究分担者

該当者なし

(3)連携研究者

該当者なし

(4)研究協力者

加藤 由樹 (KATO YUUKI)

東京福祉大学・教育学部・講師

研究者番号 : 70406734

竹内 俊彦 (TAKEUCHI TOSHIHIKO)

茨城大学・学内共同利用施設・講師

研究者番号 20327290